

2018年度 経済学部 FD 活動報告

2018年度の経済学部 FD 活動計画に従って下記の活動を行った。

1. 学生対象

(1) 「学生生活とその成果に関するアンケート」

毎年12月に4年次生を対象として行っている学生生活とその成果に関するアンケート（以下、学生生活アンケート）を2018年度も実施した。このアンケートでは、大きく「進路」、「卒業論文」、「学生生活」、「経済学部の教育」の項目について22個の質問項目を設定している。経済演習Ⅳの履修者数361名に対し回答者数は318名で、88.1%の回答率であった。

このアンケートの結果はFD委員によって分析され、その内容が2月19日の第2回経済学部FD研修会で報告された。また、毎年この結果と分析をふまえて次年度の経済学部研修会の議題を設定する。

(2) 「経済演習制度」

学生には4年間にわたるゼミ活動が必修として義務づけられている。1・2年次には、それぞれの年度で異なった教員の指導を受け、議論の仕方や資料検索の方法、論文・レポートの書き方などを学ぶ（ただしクォーター制導入に合わせて、2017年度以後の入学生については、2年次のゼミを取りやめ、その期間に留学や社会活動等を行いやすくした）。全てのゼミで春学期に「書評」または「修了レポート」を、秋学期に「修了論文」を提出することとなっている。

3・4年次には、2年間にわたって同一の教員から専門的な指導を受け、最終的に卒業論文の作成へと結びつける。この2年間の内に、国内外の他大学との研究発表会やインターゼミと呼ばれる活動を行うゼミナールも存在している。4年次の最後には、卒業論文を提出しなければ経済演習Ⅳの単位が与えられない。学生生活アンケートでは85.1%が4年間の経済演習制度に「非常に満足」、あるいは「まあまあ満足」と回答していた。

(3) 「能力別クラス編成」

2009年度から「経済学のための数学」で、2012年度から「ビジネス英語」と「時事英語」で能力別クラス編成を実施している。受講生の状況に応じて到達目標や教授方法に差異を持たせることで、きめ細かな指導が可能となっている。学生生活アンケートでは、80%以上の学生が能力別クラス編成に満足している（「経済学のための数学」に対しては83.6%、「ビジネス英語」、「時事英語」に対しては80.7%）。

(4) 「経済学部オリエンテーション」

2018年度は3月31日と4月1日に新入生のためのオリエンテーションを行った。学部長講話、教員紹介、経済学部のカリキュラム説明、1年次のゼミを決定するためのガイダンスを開催した後、第1・第2クォーターの履修登録指導などを行った。新入生が

最初に大学教員と関わる場であり、ここでゼミの内容について説明を受けたり質問したりすることができる。また 14 名の先輩学生が補助につき、新入生の良き相談役として活躍してくれた。

(5) 「経済学生論集」

指導教員から推薦された個人やグループによる論文を、『経済学生論集』（南山大学経済学会発行）としてまとめている。2018 年 9 月に刊行された第 32 集には 13 編の論文が掲載された。また、論集の最後には、2017 年度に提出された全ての卒業論文のタイトルが記載されている。

(6) 「学部長表彰者との懇談会」

成績優秀者に対する学部長表彰式の後に、学部長と学科長が表彰を受けた学生との懇談を行っている。ここで集められた意見は教授会や学部研修会などで報告され、必要があればそれに対する改善提案がなされる。

(7) 「オフィスアワー」

学部の全教員がオフィスアワーを設けている。予約は不要で、指定された時間であれば教員による対応が保証されている。

2. 教員対象

(1) 経済学部研修会（第 1 回経済学部 FD 研修会：9 月 7 日）

2018 年度経済学部研修会では、「推薦入学審査関係（基準の見直し等）」、「クォーター制度に関する意見聴取依頼に対する回答について」、「短期留学プログラム（経済英語海外研修）の PR 方法等」、「『英語教育』担当教員の評価基準と実施体制に係る内規について」などについて議論した。また、「数学確認テストの分析結果」、「経済英語科目の実態調査の分析結果」、そして「入試種別による成績追跡調査」についての報告があった。経済学部教授会構成要員 23 名のうち、14 名が参加した。

(2) 第 2 回経済学部 FD 研修会（12 月 5 日）

公益財団法人大学基準協会事務局長兼評価研究部長の工藤潤先生をお招きして、「第 3 期認証評価の特質—大学基準協会が求める内部質保証の実質化—」というタイトルで講演をして頂いた。参加者数は経済学部教員が 20 名、他学部教員等が 5 名であった。

(3) 第 3 回経済学部 FD 研修会（2 月 19 日）

「学生生活アンケート」の分析結果について報告が行われた。今年度も、2017 年度と同様に経済学部への満足度や進路への自己評価について、他の質問とのクロス集計をすることで、満足度や自己評価が高い学生の特徴を分析した。参加者数は 17 名であった。

(4) 経済学部 FD 委員会（3 月 21 日）

FD 委員、教務委員、入試広報委員、学生委員、就職委員で構成される経済学部 FD 委員会を開催（ただし就職委員は欠席）し、2018 年度の FD 活動を確認した上で、2019 年度の FD 活動計画について議論した。